

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 2月 17日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4271400980		
法人名	社会福祉法人 南友会		
事業所名	グループホーム 望		
所在地	長崎県南島原市南有馬町丁 306-1		
自己評価作成日	平成 25年 1月 20日	評価結果市町受理日	平成 26年 2月 21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 26年 2月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none">入居者が安心して過ごせる様に、精神的・身体的な支援を個々に合わせて行っている。職員一人一人の認知症ケアの向上に努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

<p>利用定員が6名から9名へという変化はあったが、これまで培ってきた少人数ならではの温かい雰囲気は保たれており、大らかで親しみやすい管理者のもと、職員はチームワークよく、実直で心のこもった支援をし、その中で認知症ケアに専門性を持ってあたることの大切さも実感している。法人としてもその思いに研修参加や資格取得を推奨し配慮することで応えられ、また現在、正看護師の資格を持つ次期管理者も職員として勤務されており、今後の重度化への対応にも期待ができる。近隣住民との関係もよく、お茶に誘って頂いたり、踊りや音楽ボランティアの希望があったり、「(将来は)ここに入りたい」との声を頂いたりしている。</p> <p>職員は入居者の入居以前の暮らし方、人との関わり方を尊重し、ホームに自然と馴染んで自分の家のようにのびのびと「普通の生活」をする場となるよう努め、家族との関係も途切れないよう支援している。</p>
--

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念を理解出来る様常に目につく所に掲示し日々のケアに生かせるようにしている	職員が作り上げた理念通り、入居者の気持ちに寄り添い、時には遠くで見守り、また入居以前の暮らし方を尊重してホームでの生活が入居者にとっての家庭的な暮らしとなるよう支援している。職員は入居者にもご家族にも暖かく親しみのある態度で接しており、利用者のご家族との関係や気持ちを大切にしたい穏やかな生活を提供している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方々が時折来所されたり敬老会等に参加してもらうなど日常的に交流がある	運営推進会議の参加者が地域住民として災害時の連携や地域への橋渡しをして下さり、地域へ溶け込む大きな力となっている。浮立(ふりゅう)見物に招いて下さる地域の商店、唄や踊りを披露したいと希望されたり、立ち寄って下さる近隣の方もおられる。一昨年は子供会を招いての夏祭りも開催し、今後はもっと普段の交流を増やしたいとしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての相談やホーム内見学等可能な限り対応している			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を行い様々な立場の方に参加して頂き意見交換やアドバイスをサービスの向上に繋げている	ご家族や市の担当者、自治会長や民生委員、老人会会長など地域に根ざした参加者にご意見や情報を頂き支援に役立っている。会議の中で消防署と消防団とホームの連携について、同時刻の参加が難しい市民清掃にも別時間帯にホーム周辺の清掃という形で参加し地域連携を図るなどの有意義な計画が話し合われた。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の行事を中心に交流、参加が出来る様努力している	運営推進会議に南島原市福祉事務所からの参加があり、有益な情報や意見を頂いている。書類の提出などで窓口を訪れ顔見知りの関係を作ったり、消防署や消防団との連携について市の担当部署に要請を行った。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>勉強会や研修等で身体拘束について学んでおり玄関の施錠も夜間のみで身体拘束は行っていない</p>	<p>ホームでは身体拘束についてあらゆる状況下においても、また家族の希望を受けたとしても行わないことを明言し、身体拘束をしない姿勢を貫いている。職員は入居者の行動を妨げず見守りで対応している。職員から居室のドア付近が目視できない構造のため夜間の行動を把握し、怪我や転倒のないよう安全性の確保と迅速な対応を目的として全居室入口付近でセンサーを使用している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会や勉強会への参加を推進し虐待に対する知識や理解を深める事が出来る様努めている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>研修会やホーム内勉強会において権利擁護に対する知識を深められる様努力しているが熟知しておらず、今後より理解を深められる様取り組む課題</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者家族が理解し納得して頂けるよう時間をかけ説明している</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内に意見箱を設置しており気軽に意見を言ってもらえる様努めている 又個々の家族からの要望はいつでも対応出来る様職員間での話し合いの場を設け反映出来る様心がけている</p>	<p>敬老会の食事会には必ず家族に参加いただくようお願いして、共に楽しむ時間としている。食事会は入居者の状況の把握や家族と職員との相互理解の機会ともなっており、遠慮せず意見を言っただけの環境作りという意味でも有意義な時間となっている。また普段の面会の際にも管理者や職員から積極的に話題を提供して、意見の聴取に努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回のミーティングを利用し個々の職員の意見を聞き反映させている</p>	<p>職員はチームワークがよく、普段から支援への意識や意見を共有している。職員が管理者に何でも相談出来る関係ができており、また管理者の職員への信頼が厚く職員の思いを汲み取った対応に務めているので、それが玄関横のスロープ設置や一時的な職員の増員、2人体制での入浴介助の明確化などの業務改善に繋がった。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の向上心を尊重し環境、労働条件の整備を行っている</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員全員に研修への参加を促し希望する研修へ参加出来る様勤務状況の調整を行い積極的に研修を受けられる様体制を整えている</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会や各協会等へ加盟しており様々な情報交換を行いサービスの向上を目指している</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前面談で生活歴、既往歴などを把握し入所後の生活がスムーズに行く様心がけている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に家族の希望や困っている事を把握し改善に向けて様々なコミュニケーションを図りより良い関係づくりに努めている</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所前の面談で聞き取りなどを行い必要な支援を第一に考え提供出来る様にしている</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を理解し寄り添う事でどういうケアが必要か常に模索している		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係性をより良いものにする為時には職員が間に入り今までは以上に良い関係を築ける様努めている		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	顔馴染みの商店や住んでいた所に出向き入所前の関係性を維持出来る様支援している	ドライブなどの外出の際に、入居者の自宅や自宅周辺に立ち寄り 回想的に会話を楽しんでいる。近隣の知人がホームへ気軽に立ち寄って下さったり、お茶のお誘いを受け車椅子で出かけるなど入居者は馴染みの方との触れ合いの時間を持たれている。また職員は家族に気軽に訪問していただけるよう世間話ができる関係作りをしている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共に生活出来る様職員が間に入り円滑に日常生活が送れる様支援している		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も必要に応じて相談や支援を行っている		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人がどうしたいのかを常に考えその意向に沿って支援出来る様努力している	重度化などに伴い、入居者が積極的に意向を表現されることが少なくなっており、「これは、どうですか？」と職員が意識的に問いかけて、その応えを入居者と一緒に探り、またその時の仕草や表情を思いとして受け止めている。入居者の以前の暮らし、嗜好も今に続く思いとして大切にしている。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴を細かく把握出来る様家族の協力を得ながら行っている		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向を踏まえ毎日の過ごし方や身体状況を把握出来る様努めている		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向を把握出来る様話し合いの場を持ち、職員と共にケアの向上に繋がる介護計画を作成出来る様努めている	担当職員がアセスメント、ケアプランのたたき台を作り、モニタリングなど一貫して行っている。親身になって責任を持ってプランを実施することが、支援のレベルアップに繋がっている。またプランのたたき台の段階で利用者と家族に相談し思いを汲み取った支援になるよう努めている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録を元に職員全員が情報を共有する事によって日々のケアをより良いもの出来る様活用している		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて様々なサービスを提案し本人、家族が納得出来るサービスを提供出来る様努めている		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用出来る地域資源を模索し、個人個人が充実した日常を送れる様努力している		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を尊重し協力医と相談しながら適切な医療を受けられる様支援している	協力医を主治医とされる入居者が多く、週一回の訪問診療で入居者数名ずつ検診を受けている。その際に他の入居者の健康相談をすることも出来、他の医療機関への紹介もして頂いている。他科受診の際は職員が必要な情報や記録を携えて支援しており、受診結果は家族に報告している。	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携看護師への情報提供を行いその都度適切な指示をもらえる様態を整えている</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>早期退院に向け、ホーム、家族、入院先との連携を図り情報交換を密にし医療関係者との関係作りを行っている</p>		
33	12 <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人、家族との話し合いの場をもうけ希望に添える様努めているが終末期看取りに至っていない(入院先での死亡が多い)</p>	<p>看取りについては入所時、また状況が変わるごとに家族や医師と相談して、より良い支援に繋げている。医療面で入院を希望される場合がほとんどであるが、可能ならば退院後も途切れない支援をしていきたいとしている。職員は研修に参加することでレベルアップを図られており、次期管理者が看護師であることからホームでの支援の幅の広がりが期待できる。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応に備え研修会や勉強会を通し実践出来る様努めている</p>		
35	13 <p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の消防署立会の避難訓練の他にホーム独自の訓練(通報も含む)も行い、又地域分団との連携の確認も行っており入居者の安全の確保に努めている</p>	<p>地域の方3名に有事の際の入居者の見守りや、一時避難場所の提供を願えるようになるなど、消防署、消防団、地域と連携の和を積極的に広げている。災害時の行動がスムーズに行えるよう入居者にも意識付けをしており、避難訓練には利用者も全員参加され、低めの腰窓からの搬出の可能性など消防団と共に実地で検討した。また昨年からは夜勤の見回り時に自主点検を行いチェック表に記入している。</p>	<p>災害時の法人内での連携について正式な話し合いはなされず、協力体制の明確化を期待したい。また、職員は災害時の役割を理解しているが、更に緊急時に即分担し実行できるような意識付けが望まれる。避難時の円滑な支援のために、入居者の必要最低限の情報をまとめた非常用持ち出しファイルの作成を期待したい。また突然の非常事態に備えて普段からのペットボトルの水や、食品の備蓄が望まれる。</p>

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の自尊心を傷つけない様にしプライバシーを尊重出来る様努力している	入居者の思いに寄り添い、「望まれる」ことをする、「立ち入ってもらいたくない」様子が見られたときはさり気なく見守るなど望まれる距離を保ちつつ、いつでも受け止め手伝いをする姿勢で尊厳に配慮した支援をしている。またトイレの使用の際の小声での声かけなど羞恥心に配慮した支援も周知徹底されている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で自己決定が出来る様選択肢を増やし自己決定しやすい様心掛けている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心身の状況を考慮しながら個々のペースを尊重出来る様に努めている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重しながら近所の美容師に来所してもらい個別に対応している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行い本人の好き嫌いを把握している 食事の際は職員が同じテーブルに付き一緒に楽しく食事が出来る様努めている	地域の食材を使い、美味しく飽きのこない食事を提供している。入居者にはもやしの根取りや、つわの皮むきなどできることをしていただいております。節分の巻き寿司作りなども行っています。入居者の状態に合わせてとろみやさざみ食など提供していますが、安全性と嗜好性の両面から考えて柔軟に対応している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残食のチェック表水分摂取表を毎食ごとに記入し入居者の摂取状態を把握している 又、献立表は定期的に栄養士に提出しアドバイスをもらっている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者が出来るところはやってもらい出来ないところは介助を行う 個別に応じた口腔ケアを行っている	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録表を用いて排泄パターンを把握しトイレ誘導の時間を個別に設定しておりむやみにオムツを使用しないケアを行っている	時間誘導を適切に行い、昼間はトイレを使用していただくことでオムツを減らすなど自然な排泄の自立に向けての支援となっている。できる方には手すりを自分で握っていただき、できることをしていただく支援が入居者のプライドと意欲を保ち生活の中のリハビリになっている。

44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄記録を元に排泄パターンを把握すると共に食事量水分量のチェックを行いスムーズに排便出来る様努めている</p>		
45	<p>17 ○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日の設定の他にも本人の希望やその時々に応じて入浴出来る様支援している</p>	<p>入浴日は週2回としているがその他、希望や必要に応じて清潔保持の支援を行っている。入居者の重度化に伴い、職員2人で介助することとしてスケジュールを組んで安全に配慮しており、入浴拒否傾向の方には入浴剤を使用したり時間帯を変えるなど工夫して対応している。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入眠パターンを記録しておりそれを元に本人の心身の状態に応じた睡眠や休息がとれる様支援している</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>処方箋一覧表や個別の服薬チェック表を活用しながら薬も個別に仕分けしており一つ一つに記名する等個々に合わせて支援している</p>		

48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別でのレクリエーションの計画を行うと共に一人一人に合わせた園芸、ドライブ、ゲームなどを組み合わせ気分転換や楽しみを見つけられる様支援している		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り本人の意向に沿う様に支援している 又家族や地域の方々の協力を得ながら本人の希望が実現できる様努めている 家族、親族との外出はいつでも出来る様対応している	桜の花見やつつじ見物など行事としての外出を行っている。入居者の重度化により以前のような頻繁な外出は難しくなったが、現在もいつでも希望に応じられるよう体制を整え、機会を捉えて雲仙に出かけたり自宅近辺をドライブしたりしている。また近隣のお宅に立ち寄りたり、玄関前で日光浴など楽しんでいる。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人持ちの財布を持っている入居者には少額の現金を入れ外出時使える様にしている（自力での買物が困難な入居者が増え現金を扱う機会が減っている）		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自筆では困難な方に対しては職員がサポートするなどの支援を行っている 又電話は希望があればいつでも対応出来る		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過度の装飾を避け入居者がゆっくりと落ち着いて過ごせる様な空間づくりに努めている 又季節の草花などを入居者に生けてもらい季節感を出せる様に努めている	リビングは暖色系の照明色が使用され、温かい家庭的な雰囲気がある。 また玄関前など入居者が自由に安全に歩き回れるよう掲示や物の置き方に配慮している。 玄関脇には椅子が置かれ、気候が良い時には入居者がのんびりと外気浴を楽しむ場となっている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の馴染みの場所好む所を把握しいつでも使用出来る様配慮をしている		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用していた家具や寝具を持ち込んでもらい自宅に居る様な環境で過ごせる様に努めている	椅子やテレビを持ち込み家族からの絵手紙、ポスターなど好きなもの飾られ自分らしい居室とされている。職員はカーテンの開き具合などの入居者のこだわりに沿いながら、安全性にも配慮して居心地の良い居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自尊心を傷つけずにわかる様な目印案内表示を行っている(トイレ、居室等)		

V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	
				2. 利用者の2/3くらいの	
				3. 利用者の1/3くらいの	
				4. ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある	
				2. 数日に1回程度ある	
				3. たまにある	
				4. ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	
				2. 利用者の2/3くらいが	
				3. 利用者の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	
				2. 利用者の2/3くらいが	
				3. 利用者の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	
				2. 利用者の2/3くらいが	
				3. 利用者の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	
				2. 利用者の2/3くらいが	
				3. 利用者の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	
62		利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	
				2. 利用者の2/3くらいが	
				3. 利用者の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と	
				2. 家族の2/3くらいと	
				3. 家族の1/3くらいと	
				4. ほとんどできていない	

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない